

第三回

江ノ島ミニエコツアー

3.11東日本大震災でも
耐え抜いた木。



2013年9月1日(日)10:30~15:00
参加者: 埼玉や東京で植樹活動をされている方、
農業大学生、農業高校生、教員志望学生など(8名)

タブノキの大木の前で

NPO地球の緑を守る会湘南 主催《森の観察会》
報告者 奥平里美

世界一木を植えた男、宮脇昭先生の言葉

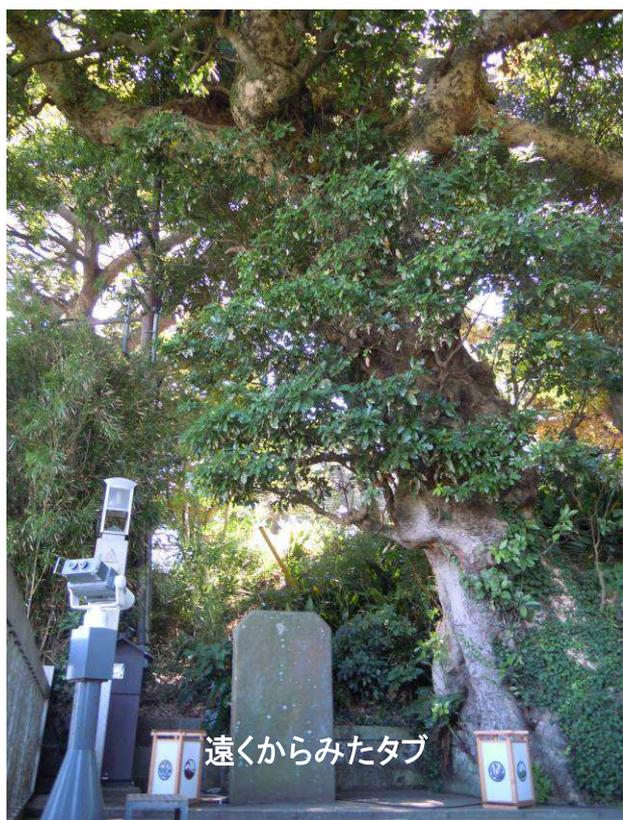
では、皆さんが住んでいる照葉樹林帯とも言われる、冬でも見られる常緑広葉樹林帯の三役は、せっかくいらしたので覚えていただきたい。それはタブノキ。浜離宮、芝離宮に今から250年前に植えられたあのタブノキが、150回あった江戸の火事にも、関東大震災にも、焼夷弾の雨にも生き残って、今日なお東京砂漠の緑のオアシスとなっています。

日本海岸側ではあの山形県の酒田車で、今から30数年前に大火事がありました。1700戸の家が焼けたのですが、たまたま本間家という古い家敷に、北限に近いのですが冬も緑のタブノキが2本あって、そこで大火が止まっていました。我々の調査結果を踏まえて酒田市長は、「タブノキ一本、消防車一台」というかけ声で、町のモール街、小学校の周り、下水処理場の周りに植えました。

2013.6 植生工学士
(ふるさとの森マイスター)
を宮脇昭先生の指導の下
取得しました。



宮脇先生と奥平家(2013.4)



遠くからみたタブ

前日まで、台風が接近しており当日の天候が危ぶまれたが、熱帯低気圧と化し、私達のツアーを祝福するかのような、見事な青空が出迎えてくれた。キラキラと照りつける太陽の下で、オリエンテーションをして出発した。

つい先月中は海の家に入り乱れ、水着姿で踊るような人で溢れていたかと思いきや、静かな浜辺に戻りつつあった。

太陽に照り輝く海は、多くの雨水が河川の上流から流れついたのか、少し濁った色をしていた。

森のガイド奥平から「今日皆様に学んでいただきたい、たった1つのことは、“本物の森”と“偽物の森”を見分ける感性を身につけていただくことです。」

「環境保護法の母、レイチェル・カーソン女史もその著書“センス・オブ・ワンダー”にて、「知ることは、感じることの半分も重要ではないのです。」と述べています。」



そして、「生態系の生産者である木々は、多くの酸素を出しているの、いつもより深呼吸をして歩いて下さい。」と呼吸法の練習。

“森林セラピー”という言葉が、日本でも馴染みになってきているが、欧州特にドイツのある地域では、社会保険も適用されるほどの“医療法”として、その効果は科学的に証明されている。

トベラ、シャリンバイ、ハマヒサカキ、ネズミモチ、ウバメガシ



ツアーの道中は、普段なら通り過ぎてしまう場所でも、立ち止まる。

ふるさとの森の樹種が生えているスポット毎に、ラミネートの資料を取り出しながら樹種名と特徴を覚えた。

例えばシャリンバイなら、葉の特徴は「不分裂」「互生(ごせい)」「鋸歯」「常緑」だ。一方ネズミモチなら、「不分裂」「対生」「全縁(ぜんえん)」「常緑」だ。



名前を覚えることは楽しいこと！道端で会う1本の木にも名前があり、それを知っているというだけで、懐かしい友人に出会ったような感動を覚える。

宮脇昭先生の「目で見臭いをかいで舐めて触って調べろ」という指導のごとく、五感で感じられるよう、葉をちぎり臭いを嗅ぐ。全て同じようだと思っていた樹木も、ひとつひとつ全く違う個性があることに気づく。



はじめの一步は、名前を覚えることから！とにかく見かけた木々の名前を調べよう。

森のガイド奥平からのオススメ。

「葉で見分ける樹木」

林将之著(小学館)



見玉神社

スタジイの魚付林(風障林)に守られた神社。

境内には、タブノキ、クスノキ、スタジイといった

ふるさとの森の主木が多く見られる。

リスが樹林の上をちよろちよろ歩いて、

私達を出迎えてくれた。

江の島で一番新しく、
一番ふるさとの森になっていて、
一番穴場の神社。



今回は、東京農業大学4年生の矢端さんに、卒論研究でまとめている内容を発表して頂きました。抜粋して紹介させていただきます。

日本にもたらされた仏教は日本風にブレンドされた、特有の宗教になっている！！

古墳時代～飛鳥時代にかけて、多くの渡来人によって道教、儒教、仏教がもたらされました。その中で仏教は552年百済の聖明王が、仏像と経論を天皇に献じたことから伝来が始まりました。日本に仏教を広めようとした僧侶たちは、まず聖なる場所を自然の中に求め、積極的に山々を宗教活動の中心地としていきました。(例:加賀の白山、日光二荒神社)

しかし、仏教の本来の教義は“人間の宇宙と全てを支配する一種の宇宙の法理を探求し、それに従って生きるように教えたもの”であり、元々仏教は自然物に視慕をおいておらず、むしろ町々の人々との交流を活動の中心としていた。そのため、むしろ山ではなく、歩いてすぐ人々に会える所に住み、人々に食べ物を乞うこともできる場所でなければならなかった。

…しかし、日本の仏教伝来のはるか前から山々をとりわけて神聖なものとして感じていたので、この宗教感情を利用して、仏教の側が布教の下地にしようとした、と考えられる。
⇒仏教は日本人が育んだ自然宗教と習合することによって、はじめて定着した！といえる。

樹木への崇拝

樹木は神霊の宿る依り所と信じられてきた。

神木:一本杉や枝ぶりの優れた孤立した木などは神木として伐採することを避けた。(スギ、クスノキ、サクラ、ヒノキ、マツ)

神に備える木:サカキ、ヒサカキ、ソヨコ、アカミノイヌツゲ、イチイ

仏に備える木:シキミ

木の精:老いた木には精が宿るといわれ信仰される

波崎の大タブ(茨城)

大きな山火事をこの木が食い止め難を逃れたことから、人々は「火伏せのクス」と呼んで感謝の念を込めた。現在も火摩退散を願う人が住職に護摩をたいてもらって、家内安全を祈願する儀式が行われている。



とっても涼しい木陰！



スタジイ、タブノキ、クスノキ、カクレミノ、ヤツデ、アオキ、ヤブニツケイ、シロダモ



境内にて。

かながわ女性センター

通常であれば、長谷へ向かうのですが、今回のツアーでは女性センターのセミナールームの見学を行いました。汗をかいてようやく涼しい食堂でランチをしミーティングの時間をもちました。外には1984年に宮脇昭先生の指導の下つくられた、環境防災保全林が広がっています。

旅館のような宿泊施設も整い、お風呂の窓からはなんとオーシャンビュー!!新宿から小田急線で来れるこの場所で、是非今後環境セミナーをひらきたいと、みんなで盛り上がりました。

【料金例】会議室 50名
平日450円/1時間
平日17時以降・日・祝
570円/1時間
宿泊 1人1泊 1,610円

神奈川県立

かながわ女性センター



新宿駅から約1時間、
片瀬江の島駅から15分。

問い合わせ
0466-27-2111

モッコク、モチノキ、クロガネモチ、
ハマビワ、ヒメユズリハ、ヤブツバキ



宮脇先生指導の環境防災保全林



しらす丼(800円)※要予約

参加者の感想

江ノ島は中学2年以來の8年ぶりでした。当時は課外活動の一環で、江ノ島の歴史や鎌倉のついでに、行った、という印象でした。植物や環境の事など気にせずいました。8年経った今、エコツアーという事で全く違う目線で江ノ島に来てみると考えさせられる事が多く、非常に刺激的な1日でした。中でも海の汚さには驚き、人間による自然破壊を痛感させられました。エコツアーに参加する事は初めてで、日本の潜在自然植生を実際に学べる良い経験ができ、子供達やまた、友人達にも木の大切さを、伝えて行きたいと思ひました。暑い中ではありましたが、一生懸命ガイドしてくれる里美さんや、相変わらずの博識である、マサトくん、そしていつも明るなお母さんを見て、奥平家は楽しそうだなあと感じました！また、海外での苦勞話をたくさんお話してくださった先生方にはとても感謝です。自分もこれから海外で生活する事を頭にいれながら体調管理や危機管理などを整えていこうと思ひます。17日に大学にて科学の先端技術についてのプレゼンがあります。その際には宮脇方式の植樹を発表しようと思ひます。今回は自然を通してリラックスできました。また機会があったら参加したいです！（学生）

今回の参加は二回目となりました。前回での体験で本物の森とニセモノの森を見分ける目を養うことを学びました。その後は普段見かける木々に対して、この木はなんの木だろう？この土地に元々ある種類の木なのかな？と深く関心を持っている自分に気がきました。今回は参加二回目なので前回の復習でしたが、木々の名前や葉っぱの特徴など一度見るだけでは忘れてしまうので、何度も現場を見て感じ、理解を深めていくことが大事だと改めて感じました。美しい自然の中で会話はずみ、心も体も喜べるツアーなので、たくさんの人に楽しんでもらえると思ひます。より多くの人にあるべき生態系の姿を知ってもらって、共に感心をもっていききたいと思ひました。（学生）

第三回目となる江ノ島フィールドワーク。今回は、現在及び今後活動の中心的存在である方達にご参加頂きました。今後の会の発展のために、重要な1日となったと感じております。もっと活動拠点を江の島におき、若者が入り乱れマリンスポーツや飲食するだけではなく、この江ノ島の大自然を心から愛し、子どもや市民の環境教育の場へする必要があると感じています。現在の江ノ島は、風紀的にも多くの課題を抱えている地域ですので、私達ももっと影響力のある環境保護団体になればいけません。そして、この江ノ島ミニエコツアーをもっと発展させ、この自然こそが重要な観光資源であり、学び守るものであることを訴えていきたいと強く感じました。（主催者）

今回は、気温がとても高かったので、もっと歩き易いコース（通常と逆回り）を選んだり、工夫すべきだったと思ひます。また、昨日依頼したにも関わらず、矢端さんが徹夜で一生懸命に準備をしてくれたことに感動しました！（打ち合わせ不足で、発表してもらった場所などをもっと考えるべきでした。）主催者として、反省すべき点を次回に生かし、もっとよいツアーをつかっていききたいと思ひました。とまかく暑くて大変でしたが、みなさん笑顔で帰っていただけたことが、とても嬉しく思ひました！



江のネコちゃん

